



財務部

「第2回国有財産の有効活用に関する 地方有識者会議」を開催

沖縄県内における国有財産の売却及び有効活用について、民間知見の活用を目的に、12月10日（月）に沖縄総合事務局長主催の「第2回国有財産の有効活用に関する地方有識者会議」を開催しました。

この会議は、「国有財産の有効活用に関する検討・フォローアップ有識者会議（財務大臣主催）」や「財政制度等審議会（財務大臣の諮問機関）」において検討が進められている国有財産の一層の有効活用策について、地方の実情等を反映させる観点から、

各財務局と沖縄総合事務局において、民間有識者の方の知見を活用させていただくために設けられているものです。

会議では、福井沖縄総合事務局長の挨拶のあと、事務局から第1回会議において検討された沖縄における宿舍の移転・再配置に係る財務大臣主催有識者会議への報告状況、沖縄における庁舎の有効活用に関する作業方針及び今後のスケジュールについて説明を行ないました。その後、玉那覇座長の進行のもと各メンバーから、庁舎整備の具体

的な手法や地域の実情を踏まえた検討の必要性など、活発な意見が出されました。



農林水産部

「田んぼの生きもの調査2007」出前授業について

土地改良総合事務所は、10月17日に名護市において、名護市立真喜屋小学校4年生20名を対象に「田んぼの生きもの調査」結果と田んぼが持ついろいろな役割について出前授業を行いました。

出前授業では、まず、7月に小学校近くの羽地大川及び真喜屋大川で実施した「田んぼの生きもの調査」の調査結果を基に、水田や水路には外来生物が定着している一方で、希少種も生息していること等を報告し、水田周辺の生態系について理解を深めること

ができました。

次に、農業用ダムから農地までの水のつながりと生態系の関係を説明するとともに、水田や水路の整備に当たっては生きものが住みよい環境になるように配慮する取り組みについて紹介しました。

児童からは「外来生物はどうして日本に入ってきたの?」「ウナギはなぜぬるぬるするの?」など次々と質問が出されました。

また、授業終了後には担当教諭や校長先生からも、「農業は食物を生産するだけで

はなく、いろいろな役割を有していることがわかり、私達も大変勉強になった」と意見がありました。



授業中の生徒達



経済産業部

平成19年度 工業標準化功労者に対する沖縄総合事務局長表彰

10月29日（月）、沖縄産業支援センターにおいて「平成19年度工業標準化功労者に対する沖縄総合事務局長表彰」の表彰式を開催しました。

本工業標準化功労者の表彰は、工業標準化事業の推進に寄与し、その功績が特に顕著であると認められる者に対して表彰する制度として、昭和61年度から実施されており、毎年10月の工業標準化推進月間に行われております。

受賞された拓南製鐵株式会社専務取締役

兼新中城工場長の仲座清正氏は、社内における工業標準化・品質管理体制の強化、並びに関係業界における工業標準化及びその普及啓発の功績が認められました。福井沖縄総合事務局局長は、仲座氏に対して、「これまでの努力に対して改めて深く敬意を表するとともに、今後とも一層の研鑽を積み、工業標準化関係者の模範としてますます活躍されることを期待しております。」と式辞を述べました。



受賞者との記念撮影



Report



経済産業部

情報化月間2007地方（沖縄）講演会

政府は、情報化が経済構造のみならず、国民の労働や余暇、教育を始めとする生活様式に及ぼす一つの社会的な変革ととらえ、関係省庁が連携しつつ、広く国民の間に情報化に関する正しい認識と理解を醸成していくことが重要と考え、毎年10月を「情報化月間」と定めております。

当局は10月31日（水）、那覇市内において、「ITによる生産性の向上」をテーマにした地方講演会を情報化月間推進会議と共催しました。

講演会に先立ち、沖縄県IT優秀技能者等表彰式があり、システム開発部門・屋比久友秀氏（（株）OCC）、情報サービス部門・藤田昌道氏（（株）CSKコミュニケーションズ）の両名が沖縄総合事務局長賞を受賞しました。引き続き経済産業省商務情報政策局情報化人材室長・夏目建夫氏が「ITを活用した企業の生産性向上、競争力強化を促進するための政府の取組み」、ソフトバンクモバイル株式会社常務執行役員・平野尚也氏が「団塊世代の高度IT人材の誘致

による沖縄情報産業の競争力強化」と題して、それぞれの講演が行われました。



講演会



開発建設部

土木の日 那覇港湾施設めぐりを開催

去る11月18日（日）、《土木の日 那覇港湾施設めぐり》を開催しました。港湾施設の役割及び重要性について理解を深めて頂くことを目的として、毎年11月18日の土木の日記念行事として開催しているイベントです。今年は、ハガキ及びメールにて応募された方の中から抽選にて選ばれた、75家族301人が参加しました。参加者は、大型水中観賞船オルカで港湾区域内をクルージングし、コンテナターミナルや防波堤などの施設見学を行いました。船上では、港湾に関するクイズ大会を企画し、多数の子供達が参加しました。更に、水中から那覇

港の防波堤に付いているサンゴやその周囲を泳ぐ魚たちを観賞した後、海の安全教室として「役立つひもの結び方」などの講義も受けました。施設めぐりのなかでも、那



水中から防波堤のサンゴを観賞

覇港と那覇空港を結ぶ【沈埋トンネル】の見学では、トンネル内でパネル展や工事内容の映画上映などを行い、施設の大きさを実感していただきました。



トンネル内のパネル展示

Report



運輸部

平成19年度 年末年始の輸送等に関する安全総点検の実施

大量の輸送需要が発生し、輸送機関等に人流・物流が集中する年末年始は、ひとたび事故等が発生した場合には大きな被害となることが予想されます。

このため、陸・海にわたる輸送機関等について、運輸安全一括法の趣旨を踏まえた経営トップを含む幹部の強いリーダーシップの下での自主点検等を通じた安全性の向上を図るため、「年末年始の輸送等に関する安全総点検」を平成19年12月10日～平成20年1月10日まで実施しました。

沖縄総合事務局運輸部では、今年度の重点点検事項として①飲酒運転を防止するた

めの体制整備状況、②自然災害等発生時に乗客等の安全を確保するための体制整備状況、③安全管理体制の整備状況、④テロ防止のための警戒体制の整備状況並びにテロ発生時の通報・連絡・指示体制の整備状況、特に、近年新たに講じるとしたテロ対策の体制の整備状況とし、点検時に特に留意することとしました。

具体的には、モノレール、バス、タクシー、トラック及びターミナル事業者等陸上交通関係、旅客定期航路事業者等船舶関係、政府登録ホテル等宿泊施設関係及び第一種旅行業者に対して、自主点検を適切に実施す

るよう指導を行ったほか、期間内に職員による立入検査も同時に実施し、点検において発見された不備事項については、早急な改善を指示・指導しました。



沖縄都市モノレール線への立入検査

Report